

November 2020  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo



# PHIL HAR MONY

# 感染症予防対策についての取り組み

---

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため、休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 当日は極力接触を避けるため、会場内での当日券販売、チケットの当日精算は行いません。必ず事前に発券されたチケットをお持ちの上、ご来場ください。  
また、お連れ様のチケットをお預かりすることもできませんので、あらかじめご了承ください。
- 当日、チケット半券のもぎりは、係員の確認後、お客様ご自身でお願いいたします。  
また、プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- ロビー等での歓談はなるべくお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。

- 
- 喫茶コーナーは休止しております（サントリーホールはソフトドリンクのみの提供）。
  - 会場内での食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
  - NHK ホールの喫煙コーナーは休止しております。
  - クロークは休止しております。
  - ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
  - 会場内での他の公演のチケット販売は行いません。またCD等の販売もございません。
  - NHKホールでの公演について、終演後に運行していた渋谷駅行きの臨時バスは、3密（密閉・密集・密接）防止の観点から運休となります。

- 
- 公演により座席数を制限している場合があります。
  - 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
  - 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の流れ替えに努めます。
  - スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
  - 厚生労働省による「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」の活用を推奨いたします。

# Philharmony

CONTENTS  
NOVEMBER 2020

# 11

- 3 [公演プログラム] **NHKホール** | 11月14日、15日
- 8 [公演プログラム] **東京芸術劇場** | 11月20日、21日
- 13 [公演プログラム] **サントリーホール** | 11月25日、26日
- 17 [シリーズ] **N響百年史** | 第14回 | 近衛秀麿、ベルリン・フィルを振る 片山杜秀
- 21 NHK交響楽団メンバー
- 22 特別支援・特別協力・賛助会員
- 26 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members
- 27 2020-21シーズン公演日程 / 12月公演 チケット発売中 / お詫びと訂正
- 28 役員等・団友
- 表3 [お知らせ] ベートーヴェン「第9」演奏会 / かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

## お客様へのお願い



公演中は携帯電話、  
時計のアラーム等は  
必ずお切りください



演奏は最後の余韻まで  
お楽しみください



場内での録画、録音、  
写真撮影は固くお断り  
いたします



私語、パンフレットを  
めくる音など、  
物音が出ないように  
ご配慮ください



演奏中の入退場は  
ご遠慮ください



補聴器が  
正しく装着されているか  
ご確認ください

# Special Thanks



## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

東日本旅客鉄道株式会社

MIZUHO みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

East Japan Railway Company

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて  
©Lukas Beck

11/14 土 6:00pm  
11/15 日 3:00pm

# NHKホール

NHK Hall

November

14(Sat) 6:00pm

15(Sun) 3:00pm

指揮

熊倉 優

Masaru Kumakura, conductor

ピアノ

藤田真央

Mao Fujita, piano

コンサートマスター

白井 圭

Kei Shirai, concertmaster

## メンデルスゾーン

序曲「フィンガルの洞窟」作品26 [10']

## シューマン

ピアノ協奏曲 イ短調 作品54 [31']

I アレグロ・アフエットウオーソ

II 間奏曲: アンダンティーノ・グラチオーソ

III アレグロ・ヴィヴァーチェ

— 休憩 (20分) —

## バッハ(レーガー編)

コラール前奏曲「おお人よ、おまえの罪に泣け」BWV622 [6']

## メンデルスゾーン

交響曲 第4番 イ長調 作品90  
「イタリア」[27']

I アレグロ・ヴィヴァーチェ

II アンダンテ・コン・モート

III コン・モート・モデラート

IV サルタレロ: プレスト

Felix Mendelssohn Bartholdy  
(1809–1847)

“Die Fingals-Höhle,” overture Op. 26

Robert Schumann (1810–1856)  
Piano Concerto A Minor Op. 54

I Allegro affettuoso

II Intermezzo: Andantino grazioso

III Allegro vivace

— intermission (20 minutes) —

Johann Sebastian Bach  
(1685–1750) /

Max Reger (1873–1916)

“O Mensch, bewein’ dein’ Sünde gross,” BWV622, chorale prelude

Felix Mendelssohn Bartholdy  
Symphony No. 4 A Major Op. 90  
“Italienische”

I Allegro vivace

II Andante con moto

III Con moto moderato

IV Saltarello: Presto

## Artist Profiles

## 熊倉 優 (指揮)



1992年東京生まれ。16歳で作曲を、大学入学時より指揮を始め。桐朋学園大学(作曲専攻)卒業および同研究科修了。指揮を梅田俊明、下野竜也に師事。

2016年、第26回京都フランス音楽アカデミー最優秀賞(第1位)および第12回ドナウ国際指揮者コンクール第2位受賞。2018年には、第18回東京国際音楽コンクール(指揮)で第3位に入賞。

2016年から2019年まで、NHK交響楽団首席指揮者バーヴォ・ヤルヴィおよび、同団アシスタントとして定期公演などに携わり、2018年N響を初指揮。2020年7月にはコロナによる演奏活動休止後、N響にとって初めての演奏活動となった「N響 希望のコンサート」(放送演奏)でベートーヴェン《交響曲第1番》などを演奏した。

N響のほかにも、広島交響楽団、九州交響楽団、群馬交響楽団、東京交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、東京都交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、札幌交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京混声合唱団などと共演し、オペラやバレエの分野での活動も目覚ましい。

## 藤田真央 (ピアノ)



1998年東京生まれ。2016年、第20回浜松国際ピアノアカデミーコンクールで第1位。2017年には、第27回クララ・ハスキル国際ピアノコンクールで優勝。さらに2019年6月チャイコフスキー国際コンクールで第2位入賞を果たし、短期間で世界有数のコンクールを席卷した。

2019/20年シーズンには、ワレリー・ゲルギエフ指揮マリインスキー歌劇場管弦楽団と共演してロンドン・デビューを果たす一方、ミュンヘン、ニューヨーク、モスクワ、サンクトペテルブルク、ソウルなどでもソロ・リサイタルや協奏曲のソリストとして登場するなど、着実に活躍の舞台を世界に広げている。2020年7月には、オンラインで開催されたヴェルビエ音楽祭で、そのリサイタルが世界中に配信された。

2020/21年シーズンには、ミュンヘン・フィルとの共演、ロンドン、パリ、ミュンヘンでのリサイタル、ヴェルビエ音楽祭および国内での《モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会》などが計画されている。

これまでに、ワレリー・ゲルギエフ、カーチン・ウォン、アレクサンドル・スラドコフスキー、ワシリー・ペトレンコ、オレグ・カエターニ、マリインスキー歌劇場管弦楽団、ユタ交響楽団、ローザンヌ室内管弦楽団、マカオ管弦楽団などと共演。N響との共演は今回が初めて。

---

**Program Notes | 西原 稔**


---

ローベルト・シューマン(1810~1856)とフェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ(1809~1847)の活躍した1830~1840年代は、音楽の転換期であった。そのひとつは標題交響曲の創作で、音楽に絵画的な情景を盛り込み、文学的な要素を取り入れる試みが行われた。それは演奏会序曲というジャンルの登場にも示されている。シューマンの《ピアノ協奏曲イ短調》でもこれまでとは異なった独自の表現が試みられている。

---

**メンデルスゾーン**


---

## 序曲「フィンガルの洞窟」作品26

1829年にバッハの《マタイ受難曲》の再演を果たした後、メンデルスゾーンはイギリスを初めて旅行する。その折にスコットランドのヘブリディーズ諸島を訪れ、「フィンガルの洞窟」の名で知られる洞窟を見る。その印象を音楽に表現したのがこの作品で、翌年12月、滞在していたローマで完成した。出版譜のタイトルは「ヘブリディーズ諸島のための序曲」であるが、自筆草稿には「フィンガルの洞窟のための序曲」と記されている。演奏会用序曲の最初の重要な作品で、その後のロマン派の創作に大きな影響を及ぼした。作品は初稿の完成後、完成の年に最初の改訂を行い、1832年に2回の改訂を施し、最終的な完成に至った。作品はソナタ形式で構成されており、各主題はひじょうに表情ゆたかで、新しいオーケストラ表現が試みられている。冒頭でファゴットとヴィオラ、チェロによって奏される第1主題は波を思わせ、その後木管楽器群で提示される第2主題や、上行分散和音と憧れに満ちたチェロとファゴットで提示される叙情的な主題はすぐれて印象的である。

|      |   |
|------|---|
| 作曲年代 | 1829年~1830年12月。1830年12月改訂、1832年6月に2回改訂            |
| 初演   | 1832年5月14日、ロンドン・フィルハーモニック協会                       |
| 楽器編成 | フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽 |

---

**シューマン**


---

## ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

シューマンは「管弦楽の年」の1841年、「幻想曲」というタイトルの単一楽章の協奏曲を作曲する。この《幻想曲》は、イグナツ・モシェレス(1794~1870)の《ピアノ協奏曲第6番「幻想的協奏曲」》(作品90)および《ピアノ協奏曲第7番「悲愴協奏曲」》(作品93)に影響をうけて創作されたとみられ、さらにメンデルスゾーンの《ピアノ協奏曲第2番》(作品40)との関連も注目されている。1844年から1845年にかけての最初の精神的な危機を経て、1845年にシューマンはモシェレスの助言を受けて、《幻想曲》を全3楽章の《ピアノ



協奏曲》へと改訂する。作品は、作曲家のフェルディナント・ヒラーに献呈された。

**第1楽章** アレグロ・アフェットウオーソ、イ短調、4/4拍子。楽章は自由なソナタ形式で構成され、高い音域からなだれ落ちるかのようにピアノ独奏が和音で力強く奏して始まる。短い序奏ののち、オーボエが淡く感傷的な楽想の第1主題を奏し、この主題をピアノが引き継ぐ。その後、クラリネットがこの主題動機に基づいた第2主題をハ長調で奏する。華やかなカデンツァの後、力強く楽章を締め括る。

**第2楽章** アンダンティーノ・グラチオーソ、ハ長調、2/4拍子。「間奏曲」と題された中間楽章で、ピアノと弦楽器が、あたかも問いかけるかのような美しい主題を提示する。音階的に上行する4度の音階の動機は甘美な雰囲気にあふれている。楽章は3部形式で構成され、中間部はハ長調で、チェロが<sup>あこが</sup>憧れを込めたような上行6度の動機による主題を提示する。そして楽章は途切れることなく第3楽章へと入る。

**第3楽章** アレグロ・ヴィヴァーチェ、イ長調、3/4拍子。第2楽章の感傷を打ち消すかのように、ピアノが第1主題を<sup>たくま</sup>逞しく打ち鳴らして始まる。楽章はソナタ形式に基づく。この協奏曲の主調はイ短調であるが、フィナーレは同主長調のイ長調である点が注目される。上行4度の動機や跳躍進行の動機など、第2楽章の動機との関連性も感じさせる。休符を活かした軽快なハ長調の第2主題を第1ヴァイオリンが提示する。

|      |  |
|------|--|
| 作曲年代 | [幻想曲]1841年 [ピアノ協奏曲]1845年                                 |
| 初演   | 1846年1月1日、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス、フェルディナント・ヒラー指揮、クララ・シューマンの独奏    |
| 楽器編成 | フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ピアノ、ソロ |

## バッハ(レーガー編)

### コラール前奏曲「おお人よ、おまえの罪に泣け」BWV622

マックス・レーガー(1873~1916)は、19世紀末から20世紀前期のドイツの作曲家で、ドイツ・ロマン派を受け継ぎつつ、半音階和声を取り入れた独自のモダニズムを展開した。同時に20世紀前期最大のバッハ受容者のひとりで、無伴奏ヴァイオリンやチェロのための作品も作曲している。オルガン奏者でもあった彼は非常に数多くのバッハの作品の編曲も手掛けた。この作品はそのひとつで、バッハの《オルガン小曲集》(1713年から1716年のワイマール時代に作曲)の1曲、《コラール「おお人よ、おまえの罪に泣け」》(BWV622)を、ヴァイオリンとオルガン用に続いて、1915年、弦楽オーケストラのために編んだ。コラールの旋律は1526年刊行の「詩編の祈りと教会の修行」と題する讚美歌集による。アダージョ・アッサイのゆったりとした楽想で、コラールの旋律がゆたかな対旋律によって美しく彩られている。



|      |                    |
|------|--------------------|
| 作曲年代 | [弦楽オーケストラ版]1915年9月 |
| 初演   | 不明                 |
| 楽器編成 | 弦楽                 |

## メンデルスゾーン

# 交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

メンデルスゾーンはイギリス旅行に続いて1830年10月から翌年4月までイタリアを旅した。北ドイツに育った彼にとって、イタリアの明るい太陽と燦々と降り注ぐその光は、実に新鮮なものだったに違いない。《交響曲第4番》は、ローマ滞在中に創作を始め、イタリアを離れる頃には第2楽章を除いてほとんど完成されていた。ベルリンに戻った後、1832年11月にロンドン・フィルハーモニック協会から交響曲の作曲を委嘱されたメンデルスゾーンは、ローマ滞在中に着手していたこの交響曲の創作を再開した。作品は、1833年3月13日に完成された。初演は同年5月13日、ロンドン・フィルハーモニック協会の定期演奏会で行われ、作曲家自身が指揮台に立った。その後、1834年6月に第2楽章以降の楽章の改訂が行なわれ、改訂版の楽譜が出版されたのは、メンデルスゾーンの死後の1851年である。

**第1楽章** アレグロ・ヴィヴァーチェ、イ長調、6/8拍子。管楽器が連打を刻む中、弦楽器は主和音をピチカートではじいて音楽は始まる。そのすぐ後に、ヴァイオリンが第1主題を朗々と奏でる。心弾むような第2主題は、最初にクラリネットとファゴットによって示される。

**第2楽章** アンダンテ・コン・モート、ニ短調、4/4拍子。ABABAの形をとり、楽章は、溜め息のような前奏の後、低弦楽器のユニゾンに導かれて始まり、ヴァイオリンとオーボエ、ファゴットが憂いに満ちた表情の主旋律を切々と歌い上げる。

**第3楽章** コン・モート・モデラート、イ長調、3/4拍子。メヌエット楽章で、最後にコーダが付されている。第1ヴァイオリンが大らかに主旋律を歌い上げる。中間部は、ホルンの合図のような響きや管楽器群のしなやかなリズムが印象的である。

**第4楽章** サルタレロ：プレスト、イ短調、4/4拍子。楽譜の冒頭に記される「サルタレロ」は14世紀末イタリアに起源をもつ舞曲。飛び跳ねるような激しさが楽章全体を支配している。

|      |   |
|------|---|
| 作曲年代 | 1830年～1833年3月13日、1834年6月改訂                        |
| 初演   | 1833年5月13日、ロンドン・フィルハーモニック協会の定期演奏会、作曲家自身の指揮        |
| 楽器編成 | フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽 |

## 西原 稔 | Minoru Nishihara

桐朋学園大学大学院教授を経て、現在同大学名誉教授。おもな研究領域は18、19世紀ドイツ語圏の音楽。

11/20 金 7:00pm  
11/21 土 2:00pm

# 東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre

November  
20(Fri) 7:00pm  
21(Sat) 2:00pm

指揮

原田慶太楼

Keitaro Harada, conductor

ヴァイオリン

神尾真由子

Mayuko Kamio, violin

コンサートマスター

篠崎史紀

Fuminori Maro Shinozaki, concertmaster

## コリリャーノ

航海[9']

## バーバー

ヴァイオリン協奏曲 作品14[25']

- I アレグロ・モデラート
- II アンダンテ
- III プレスト・イン・モート・ベルベトゥオ

— 休憩 (20分) —

## ドヴォルザーク

交響曲 第9番 ホ短調 作品95

「新世界から」[40']

- I アダージョーアレグロ・モルト
- II ラルゴ
- III スケルツォ:モルト・ヴィヴァーチェ
- IV アレグロ・コン・フォーコ

## John Corigliano (1938-)

Voyage

## Samuel Barber (1910-1981)

Violin Concerto Op. 14

- I Allegro moderato
- II Andante
- III Presto in moto perpetuo

— intermission (20 minutes) —

## Antonín Dvořák (1841-1904)

Symphony No. 9 E Minor Op. 95

“From the New World”

- I Adagio – Allegro molto
- II Largo
- III Scherzo: Molto vivace
- IV Allegro con fuoco

## Artist Profiles

## 原田慶太楼 (指揮)



©Chunda Hershner

1985年東京生まれ。オハイオ州インターロックン芸術高校で、指揮をフレデリック・フェネルに師事。ロシアのサンクトペテルブルクでも指揮を学ぶ。2009年創設者ロリン・マゼールの招きでキャッソルトン音楽祭に、2010年音楽監督ジェームズ・レヴァインしょうへいの招聘によりタングルウッド音楽祭に、2011年には芸術監督ファビオ・ルイージの招請によりパシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌と、著名な教育音楽祭に参加。これまでに、ロバート・スパーノ、マイケル・ティルソン・トーマス、オリバー・ナッセン、ヘルベルト・ブロムシュテットなどに師事。

20歳でジョージア州のメーコン交響楽団アシスタント・コンダクターに就任したのを皮切りに、プロ・オーケストラでのキャリアを開始。2006年にはモスクワ交響楽団で指揮者デビュー。2015年から4年間にわたりシンシナティ交響楽団および同ポップス・オーケストラのアシスタント・コンダクターを務めた。2020年シーズン、ジョージア州サヴァンナ・フィルハーモニックの音楽・芸術監督に就任。2021年4月に東京交響楽団正指揮者に就任予定。

N響との初共演は2019年8月の「フェスタサマーミュージザKAWASAKI」と「N響ほっとコンサート」。今回はそれ以来の共演となる。

## 神尾真由子 (ヴァイオリン)



©Makiko Kamiya

4歳よりヴァイオリンをはじめ。2007年に第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝。これまで、国内の主要オーケストラはもとより、チュリヒ・トーンハレ管弦楽団、ロシア・ナショナル・フィルハーモニー交響楽団、ボストン・ポップス・オーケストラ、BBC交響楽団、ブダペスト祝祭管弦楽団、バイエルン国立歌劇場管弦楽団などと共演。指揮者では、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ、エリアフ・インバル、ウラディーミル・アシュケナージ、イルジー・ビェロフラーヴェク、イヴァン・フィッシャーなどと共演している。近年では、ズービン・メータ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団と南米ツアー、ルドヴィク・モルロー指揮イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団とイスラエル・ツアーを行った。サン・モリッツ、コルマル、ヴェルビエなどの著名音楽祭にも出演。また、ニューヨーク、ワシントン、サンクトペテルブルク、モスクワ、フランクフルト、ミラノなどでリサイタルを行っている。

N響との初共演は2003年。以後数多く共演を重ね、2016年には台湾公演のソリストを務め、チャイコフスキーの協奏曲を披露した。

使用楽器は宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス「Rubinoff」(1731年)。

---

**Program Notes | 柴辻純子**


---

現代を生きるジョン・コリリャーノ(1938～)、戦争の世紀を生き抜いたサミュエル・バーバー(1910～1981)。ともに多様な価値観が混在するアメリカで創作活動を始め、人々の心に残る旋律を作り上げた。チェコのアントニン・ドヴォルザーク(1841～1904)も数々の美しい旋律を紡ぎ出した。新天地アメリカは彼の眼にどのように映ったのだろうか。

---

**コリリャーノ**


---

**航海**

「聴衆とのコミュニケーションを大切にしたい」と語るコリリャーノは、ロマンチックでリカルな作風を信条とする。創作の幅は広く、メトロポリタン歌劇場委嘱のオペラ《バルサイユの幽霊》(1991年初演)から、アカデミー賞音楽賞受賞作の映画「レッド・ヴァイオリン」(1998)、ピューリッツァー賞を受賞した《交響曲第2番》(2000)、2011年にニューヨーク・フィルハーモニックによって初演されたアメリカ同時多発テロ事件の犠牲者追悼のための《One Sweet Morning》(2010)まで、いまを生きる作曲家として多方面で活躍している。

弦楽オーケストラのための《航海》は、もとは1971年にフランス象徴派の詩人シャルル・ボードレールの「旅への誘い」による無伴奏の合唱曲として作曲され、テキストには、アメリカの詩人リチャード・ウィルバー(1921～2017)の翻訳が用いられた。ボードレールの詩は官能的だが、「ウィルバーの鋭い訳詞は、驚くべき想像の世界を描き出し」(コリリャーノ)、詩のリフレイン「そこはすべてが秩序と美、豪華、静寂そして逸楽」が、この音楽の本質を映し出しているという。のちに合唱曲は、旧知のヴァイオリニストで指揮者のメアリー・キャンベルグ(1918～2004)の依頼で、彼女が創設した若者のための弦楽オーケストラのために1976年に編曲され、《航海》というタイトルが付された。弱音から穏やかな音楽が波打つように高まり、冒頭の旋律が繰り返され、やがて静かに消えていく。なお、この曲は、1983年にフルートと弦楽合奏用に再構成されている。

---

|      |   |
|------|---|
| 作曲年代 | [原曲]1971年 [弦楽オーケストラ版]1976年                                    |
| 初演   | [弦楽オーケストラ版]1977年4月22日、ニューヨーク、メアリー・キャンベルグ指揮、ロックランド・ユース弦楽オーケストラ |
| 楽器編成 | 弦楽  |

---



---

**バーバー**


---

**ヴァイオリン協奏曲 作品14**

バーバーは、モダニズムや前衛音楽と距離を取りつつ、親しみやすい旋律や伝統的書法を巧みに取り入れ、叙情的な味わいや美しさ、洗練されたオーケストレーションを

特徴とする数々の作品を残した。アルトゥーロ・トスカニーニやブルーノ・ワルターらがこぞって取り上げ、《交響曲第1番》(1936)で名声を高め、翌年発表の《弦楽のためのアダージョ》は、彼の最も有名な作品となった。

《ヴァイオリン協奏曲》は、フィラデルフィア在住の実業家で、慈善活動にも力を入れていたサミュエル・フェルズの委嘱で、彼の養子の若手ヴァイオリニスト、アイソ・ブリゼリ(1912~2005)のために作曲された。バーバーは、フェルズの勧めでスイスに渡り、1939年夏に第1、2楽章を書き上げた。9月初旬にアメリカに帰国後、ブリゼリに楽譜を見せると好意的な反応を示したが、終楽章を送ってから両者の関係がおかしくなった。ブリゼリは、無窮動の技巧的な音楽は、フィナーレに相応しくないので、これを中間部にした音楽に書き直すように提案した。一方、バーバーは、ブリゼリが演奏不能として受け取りを拒否したと語る。最近発表された研究論文によると、当時の手紙などから、2人の主張にブリゼリのヴァイオリン教師の思惑も加わり、余計に拗れたようだ。バーバーは最後まで譲らず、作曲料の半分を返還し、カーティス音楽院の学生の協力を得て、演奏可能であることを証明した。当初予定の初演は流れてしまったが、1941年2月7日にアメリカの名ヴァイオリン奏者アルバート・スポールディング(1888~1953)の独奏で初演され、数日後にはニューヨークのカーネギー・ホールで再演されるなど、大きな成功を収めた。

**第1楽章**(アレグロ・モデラート、ト長調、4/4拍子)：序奏は持たず、独奏ヴァイオリンがノスタルジックで甘美な第1主題を奏で、第2主題はクラリネットのリズミカルな動きで始まる。最後に小規模なカデンツァが置かれ、コーダで2つの主題が静かに回想される。**第2楽章**(アンダンテ、ホ長調、6/4拍子)：オーボエの穏やかな旋律が、チェロ、クラリネット、ヴァイオリン、ホルンに受け継がれる。その後、独奏ヴァイオリンがラプソディックな旋律を歌う。**第3楽章**(プレスト・イン・モート・ペルベトゥオ[無窮動のプレスト]、イ短調、4/4拍子)：独奏ヴァイオリンが縦横無尽に動き回り、鮮やかな技巧が存分に発揮される。

|      |   |
|------|---|
| 作曲年代 | 1939年   |
| 初演   | 1941年2月7日、フィラデルフィア、アルバート・スポールディングの独奏、ユージン・オーマンディ指揮、フィラデルフィア管弦楽団             |
| 楽器編成 | フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、小太鼓、ピアノ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ |

## ドヴォルザーク

### 交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」

ドヴォルザークは、1892年にニューヨークのナショナル音楽院の初代院長に就任するために、家族を伴って渡米した。大都会の喧騒や冬の厳しさに戸惑いながらも、新しい土地で知った黒人霊歌やアメリカ先住民の歌や民謡に触れるうちに、新たな創作意

欲をかきたてられた。彼の最後の交響曲となった《第9番》は、アメリカ滞在中（1892～1895）に作曲され、この時代の他の作品と同様、アメリカ的な要素と故郷ボヘミアへの郷愁が結びつけられた。

ドヴォルザークは、1893年1月後半の3週間で第1楽章から第3楽章までのスケッチを終え、5月24日に全曲を完成させた。中間の2つの楽章は、ヘンリー・ワーズワース・ロングフェロー（1807～1882）の長編叙事詩『ハイアワサの歌』（1855）から着想を得ている。これは、アメリカ先住民の精神的英雄を扱ったもので、偶然チェコ語の翻訳本を手に入れたドヴォルザークは、それに夢中になった。第2楽章にインスピレーションを与えた「森の葬式」、あるいは「インディアンの儀式的踊り」といった自然や人間の深い感情に分け入るような詩を通して、自身の故郷の風景を懐かしみ、ボヘミアへの思いを募らせた。それと同時に、ドヴォルザークにとってアフリカ系の人々やアメリカ先住民族の存在は、支配と抑圧の苦難の歴史を背負ったチェコ民族の姿と重なるところがあり、そうした共感が、音楽をいっそう熱く、雄弁に語らせることになったといえるだろう。

**第1楽章** アダージョ、ホ短調、4/8拍子—アレグロ・モルト、2/4拍子。ゆるやかな序奏に続いて、力強い主部はホルンの鋭いリズムが特徴的な第1主題が示される。フルートとオーボエによるボヘミアのポルカを思わせる中間主題や、フルートの鄙びた味わいの第2主題が加わり展開する。

**第2楽章** ラルゴ、変ニ長調、4/4拍子。有名な旋律がイングリッシュ・ホルンでしみじみと広がる。憂いを帯びた中間部（嬰ハ短調）は、管楽器を支えるコントラバスのピチカートが印象的で、最後に第1楽章の第1主題の動機も加わる。

**第3楽章** モルト・ヴィヴィアータ、ホ短調、3/4拍子。ティンパニとトライアングルを加えた強打で始まる民俗舞曲風の音楽は、ボヘミアの農民の踊りを思わせる。ホ長調とハ長調の2つのトリオが巧みに配置される。

**第4楽章** アレグロ・コン・フォーコ、ホ短調、4/4拍子。弦楽器の強烈な序奏に続き、トランペットとホルンで力強い第1主題が示され、クラリネットの穏やかな第2主題は故郷ボヘミアへの憧れを描く。これまでの3つの楽章の主題が回想され、堂々とした響きのなかで締めくくられる。

|      |  |
|------|--|
| 作曲年代 | 1893年  |
| 初演   | 1893年12月16日、ニューヨーク、アントン・ザイドル指揮、ニューヨーク・フィルハーモニック  |
| 楽器編成 | フルート2（ピッコロ1）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、シンバル、弦楽 |

柴辻純子 | Junko Shibatsuji

音楽評論家。おもな研究領域は、新ウィーン楽派を中心とする20世紀音楽。

11/25 水 7:00pm  
 11/26 木 7:00pm

# サントリーホール

**Suntory Hall**

November  
 25(Wed) 7:00pm  
 26(Thu) 7:00pm

指揮 **原田慶太楼** | プロフィールは p.9  
 Keitaro Harada, conductor

コンサートマスター **伊藤亮太郎**  
 Ryotaro Ito, concertmaster

バーンスタイン  
 「オン・ザ・タウン」—  
 「3つのダンス・エピソード」[11']

- I グレート・ラヴァー
- II ロンリー・タウン: パド・ドゥー
- III タイムズ・スクエア: 1944年

G. ウォーカー  
 弦楽のための叙情詩 [6']

ピアソラ  
 タンガージョ(ブエノスアイレス変奏曲) [14']

— 休憩 (20分) —

コープランド  
 バレエ組曲「アパラチアの春」[25']

マルケス  
 ダンゾン 第2番 [10']

Leonard Bernstein (1918–1990)  
 “On the Town” –  
 Three Dance Episodes

- I The Great Lover displays himself
- II Lonely Town: Pas de deux
- III Times Square: 1944

George Walker (1922–2018)  
 Lyric for Strings

Astor Piazzolla (1921–1992)  
 Tangazo (Variations on Buenos Aires)

— intermission (20 minutes) —

Aaron Copland (1900–1990)  
 “Appalachian Spring,” ballet suite

Arturo Márquez (1950–)  
 Danzón No. 2



---

**Program Notes | 沼野雄司**


---

アメリカ、といえば、我々は一般的にアメリカ合衆国を思い浮かべる。しかし、実際には「アメリカ」は北米、中米、南米という大きな広がりを示す語だ。本日のプログラムは、まさにこの3つのアメリカを俯瞰するダイナミックな様相を呈していよう。

---

**バーンスタイン**


---

**「オン・ザ・タウン」—「3つのダンス・エピソード」**

レナード・バーンスタイン(1918~1990)が初めて手がけたミュージカル《オン・ザ・タウン》は、3人の水夫が東の間の休日を楽しむという、たわいない物語(初演では日系ダンサーのソノ・オーサトがヒロイン役を務めた)。その後、バーンスタインはこの人気作品から管弦楽部分を抜粋して組曲に仕立て上げた。

1曲目の〈グレート・ラヴァー〉は、地下鉄の中で居眠りした水夫のゲイビーがみる幸せな夢の一断面。なんということはない4拍子が、絶妙のアクセント操作で変拍子のように響く。2曲目の〈ロンリー・タウン:パド・ドゥー〉はニューヨークという都市の孤独を描いた、緩徐楽章的な音楽。そして第3曲〈タイムズ・スクエア:1944年〉は、大都市を楽しむ水夫たちを描いた華やかな終曲。意外に手の込んだ拍と転調に注目されたい。

|      |   |
|------|---|
| 作曲年代 | [ミュージカル全曲版]1944年 [3つのダンス・エピソード]1945年  |
| 初演   | [ミュージカル全曲版]1944年12月28日、レーマン・エンゲル指揮、アデルフィ劇場 [3つのダンス・エピソード]1946年2月3日、作曲家自身の指揮、サンフランシスコ交響楽団、サンフランシスコ   |
| 楽器編成 | フルート1(ピッコロ1)、オーボエ1(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3(E♭クラリネット1、バスクラリネット1)、アルト・サクソフォーン1、ホルン2、トランペット3、トロンボーン3、ティンパニ2、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、大太鼓、トライアングル、ドラムス、ウッド・ブロック、シロフォン、ピアノ1、弦楽 |

---

**G. ウォーカー**


---

**弦楽のための叙情詩**

ジョージ・ウォーカー(1922~2018)は、アフリカ系アメリカ人の音楽家。ピアニストとしてマンハッタンのタウン・ホールでリサイタルを行なうとともに、黒人としてはじめて音楽院の教授となり、さらにはピュリツァー賞(1996)を受賞するなど、アメリカにおける黒人音楽家の地位向上に大きな貢献を果たした人物である。

作曲家24歳の年に書かれた《弦楽のための叙情詩》は、亡くなった祖母に捧げられたという作品だが、カーティス音楽院で同級生だったバーバーの《弦楽のためのアダージョ》との類似が指摘されることが多い。なるほど、確かに主題を模倣するようにして他の楽器がまわりつく様子や、幾度か波のように訪れるクライマックスなどは共通しているのだが、追悼の悲しみではなく、追憶の暖かい感情が全編を覆っている点には決定的

な違いがあろう。

|      |   |
|------|---|
| 作曲年代 | 1946年                                       |
| 初演   | 1946年、セイモア・リブキン指揮、カーティス音楽院学生オーケストラ、ラジオ放送による |
| 楽器編成 | 弦楽  |

## ピアソラ

### タンガース(ブエノスアイレス変奏曲)

南米アルゼンチン生まれのアストル・ピアソラ(1921~1992)は、バンドネオン奏者としての顔が有名だが、しかし一方で彼はヒナステラやナディア・ブーランジェに師事した、正統的なクラシック音楽作曲家でもあった。「ブエノスアイレスをめぐる変奏曲」という副題が付された《タンガース》は、彼のそうした側面がよくあらわれた作品。

曲は低弦による重苦しいレントの序奏に始まるが、やがて声部が増えてゆくと、曲調は祈りへと変容。このねっとりとした音楽が5分ほど続いた後、いよいよアレグロに入るとタンゴらしくなってくるが、彼のバンドネオン作品とは異なり、高揚はあくまでも抑制されている。後半の長いホルン独奏は大きな聴きどころのひとつだろう。

|      |  |
|------|--|
| 作曲年代 | 1969年  |
| 初演   | 1970年、ヘドロ・イグナチオ・カルデロン指揮、ブエノスアイレス音楽アンサンブルによる  |
| 楽器編成 | フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トライアングル、グイロ、グロッケンシュピール、シロフォン、サスペンデッド・シンバル、トムトム、ウッド・ブロック、ピアノ1、弦楽 |

## コープランド

### バレエ組曲「アパラチアの春」

1900年、ユダヤ人としてニューヨークに生まれたアーロン・コープランド(1900~1990)の音楽は明快・素朴と評されることが多いが、その背後に常に前衛への目配りがあったことはあらためて強調しておいてもよい(彼は晩年には十二音技法を用いたりもしている)。こうした志向は隠し味のスパイスのように、彼の音楽に独特の深みを与えている。

《アパラチアの春》は、モダン・ダンスの創始者マーサ・グレアムのために、戦争末期の1944年に書かれたバレエ曲。なにより大きな特徴は、後半部でシェイカー教徒の聖歌《シンプル・ギフト》が引用されること。都市文明から背を向け、自給自足に近いかたちで宗教生活を送るシェイカー教徒の生活は、戦時中のアメリカ人にとっては国の原点を思い起こさせるものだったろう。大恐慌と戦争という経験を経たからこそ「つつましくあることが神からの贈り物である」というメッセージが人々に共感をもって受け入れられることになったわけだ。

バレエ版は13の楽器のために書かれていたが、その後、オーケストラによる組曲版が1945年に、さらにオーケストラによるバレエ全曲版が1954年に作成された。

音楽は遠いエコーのようなクラリネットの呼びかけで始まる。やがてアレグロに転じて華やかな気分が溢れだすが、弦楽器による細かい上下行の間を金管楽器がポリリズムに行進する部分のアイデアは秀逸。木管の細かいパッセージが重なりだすと、不器用で素朴なダンスが始まる。やがて音楽がほぼ歩みを止めると、静寂の中、ついにクラリネットではっきりと《シンプル・ギフト》の旋律が示され、5つの変奏がはじまる。そして同時に、聴いている我々にも、つつましい幸福が訪れることになるのである。

|      |  |
|------|--|
| 作曲年代 | [バレエ]1944年 [オーケストラ組曲版]1945年 [オーケストラ全曲版]1954年   |
| 初演   | [バレエ]1944年10月30日、ルイス・ホースト指揮、ワシントンDCの議会図書館にて [オーケストラ組曲版]1945年10月4日、アルトゥール・ロジンスキ指揮、ニューヨーク・フィルハーモニック  |
| 楽器編成 | フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、ティンパニ1、シロフォン、小太鼓、大太鼓、サスペンデッド・シンバル、中太鼓、ウッド・ブロック、クラベス、グロックンシュピール、トライアングル、ハープ1、ピアノ1、弦楽 |

## マルケス

### ダンソン 第2番

メキシコの作曲家アルトゥーロ・マルケス(1950~)による《ダンソン第2番》は、10分足らずの小曲ながらも、彼の名を一躍世界的に有名にした楽曲。「ダンソン」とはキューバのダンス音楽。

マルケスは、メキシコ各地に伝えられるダンス音楽を涉猟するなかで(彼の祖父はメキシコ民俗音楽の研究者だった)、キューバを遠い発祥地とするリズム要素、そしてメキシコ音楽の哀愁をブレンドすることを思いついたのだった。現代のクラシック界においてこうした「ヒット」は珍しいが、確かに一度聴いたら忘れがたい音楽だ。

曲は哀愁に満ちた序奏部に始まり、ピアノの旋律を合図にダンス音楽へと移行。華麗な旋律とリズムの要素がめくるめくように展開する様子、そして微細な転調は筆舌に尽くしがたい魅力を放っている。

|      |  |
|------|--|
| 作曲年代 | 1994年  |
| 初演   | 1994年、メキシコ国立自治大学交響楽団による  |
| 楽器編成 | フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、グイロ、クラベス、トムトム、ピアノ1、弦楽 |

#### 沼野雄司 | Yuji Numano

桐朋学園大学音楽学部教授。ハーバード大学音楽学部客員研究員。おもな研究領域は20世紀から21世紀の音楽。

# N響百年史

## 第十四回 近衛秀麿、ベルリン・フィルを振る

片山杜秀  
Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしても馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、N響の歴史を時代背景とともに、独自の視点からひもときます——。アメリカからの凱旋後、歌曲に鞍替えた師・山田耕筰の姿を見て、いよいよオーケストラへの夢を募らせる近衛秀麿。ついにヨーロッパへ旅立ちます。

### 管弦楽作曲家から歌曲王へ ——山田耕筰の戦略的軌道修正

1923(大正12)年2月18日、<sup>このえひでまる</sup>近衛秀麿は欧州に旅立った。山田耕筰がニューヨークのカーネギー・ホールで自作やワーグナーを指揮して成功を収めて凱旋帰国したのは1919年5月。そこから4年近くが経っている。

帰国後、山田はゆるゆるやっていた。オペラや交響楽をこの国に根付かせたい。その志は相変わらずのはずだが、第1次世界大戦期に、演奏会を開催することで食べていく職業的交響楽団としては日本初といってよい東京フィルハーモニー会管弦楽部を、せっかく任されながら短期間で潰したことに、だいぶん懲りている。これから成熟してゆくださう日本の聴衆のためには、まずは歌曲や童謡だ。その先に、交響楽もだが、本格的オペラをやりたい。

山田は指揮者でもあるけれど何よりも作曲家だ。自分の歌劇や管弦楽作品が日本のクラシック音楽のスタンダードとなって、国民がそれらに広く耳を傾けるようになるのが、理想の世の中だ。そのために今は歌を作るのがちょうどいい。アメリカから戻った直後から、『赤い鳥』や『金の船』や『少年倶楽部』といった雑誌に童謡を発表し始める。しかし、どうしてもクラシック作曲家らしく世間一般にはやや歌いにくく覚えにくい旋律やら複雑な伴奏を作ってしまう、弟子の成田為三やライバルの中山晋平のような大衆に受けのよい歌が書けない。

軌道修正ができてくるのは1922(大正11)年あたりからだ。1922年には《曼珠沙華》や《かやの木山の》、1923年には《ペイチカ》や《待ちぼうけ》、1924年には《芥子粒夫人》、1925年には《からたちの花》が生まれる。ベルリン帰りの管弦楽作曲家兼指揮者として

1914年から東京に風雲を巻き起こした山田は、大正後半には童謡作曲家、日本の歌曲王へと一種のモデル・チェンジを果たしてゆく。

ここでくりかえせば、山田は、オーケストラへの夢、オペラへの夢を忘れていたわけではない。前回触れたように、1920(大正9)年にはワーグナーの《タンホイザー》を管弦楽も合唱も人数を揃えて部分上演しているし、1921年には《明治頌歌》を東京で発表してもいる。3管編成の大管弦楽に、雅楽の楽器の筆叢を加えて、幕末から明治天皇崩御と大正時代の到来を描く交響詩。山田自身が指揮をして5月1日に初演した。出演したオーケストラはというと、その日のために軍楽隊や無声映画館の楽士などを集めた臨時混成楽団だった。常設の交響楽団は夢のまた夢。毎月固定給を払おうとしたらすぐまた破綻する。山師の気質に富む山田も危ない橋は渡れなかった。

## あくまでも交響楽を志向する近衛秀麿

弟子の近衛秀麿はそんな山田を齒がゆく思う。近衛も師匠や先輩の成田に対抗して童謡や歌曲を作ってはみる。作曲家近衛の代表作《ちんちん千鳥》もこの時期、生まれる。山田と一緒に歌曲の発表会を開いたりもする。でも、近衛が山田に憧れ、山田門下として成田らと鑄を削ったのは、歌曲作家を目指してのことではない。オーケストラへの憧れからだ。管弦楽のための音楽を作曲したかったからだ。

近衛には近代西洋芸術の最大の果実こそ交響楽であるという確信があった。大きな組織を自由自在に操りたい欲求が近衛にはどうしてもある。もしかして父の篤麿や兄の文麿が、貴族院の政治家として国家を操ることに

熱中していたことと関係があるのかもしれない。五摂家筆頭の血が国家や政治でなく音楽に対して騒ぐと、交響楽団を統率する夢に帰着するのかもしれない。

とにかく近衛の西洋音楽への興味はほとんどオーケストラに特化されていった。管弦楽の作曲への欲望は、その前提として管弦楽を知り尽くしたいという欲求を深めてゆき、そのための最良のポジションとして指揮者という職業も発見される。山田は指揮もする作曲家だったが、近衛の音楽家への夢は、もともと作曲家から、作曲もする指揮者へと切り替わってゆく。プロ交響楽団がこの国になかなか出来上がりそうにないことへの苛立ちを募らせ、その苛立ちが指揮者になりたいという前のめりの夢にますます拍車をかける。

しかも、そんな青年近衛の夢は決して荒唐無稽ではない。近衛家には財力がある。師匠の山田が及び腰なら、自分ももっと前に出てもいい。でも明らかに足りないものがある。音楽家としての箔だ。近衛は学習院から東京帝国大学文学部に進み、日本最高の作曲家にして指揮者として特に1919(大正8)年のアメリカからの帰国後は広く認められている山田の愛弟子であり、山田がさまざまな機会に臨時編成のオーケストラを振るときには近衛にも指揮をする機会が与えられ、作品発表を山田や成田と一緒にやることもある。大正時代の東京の楽壇の感覚でいえば、すでにそれなりの音楽家ではある。しかも近衛家の次男坊。有名人である。でもそこまでの。音楽学校にも行っていない。本場への留学もしていない。1923年の時点ではまだ帝大生である。華族の坊ちゃん道楽。そう陰口を叩かれても仕方ない。

ではどうするか。箔がないなら付ければよい。帝国大学を卒業しても音楽家の位取りに

は関係ない。卒業を待たずして洋行しよう。師の山田と同等か、それ以上の箔を何としても付けたい。近衛は兄の文麿に希望を認めさせ、家からの経済的援助を得て、留学する。ただし、兄の文麿は1年で戻るようにと条件を付ける。あまりに短い。師の山田は、ベルリンに足掛け5年留学し、カーネギー・ホールでコンサートを開くため、足掛け3年滞米している。1年で何が出来るというのか。

### ベルリン・フィルの指揮台に！

ところが出来た。近衛は1923(大正12)年4月にパリに着いた。パリではスコラ・カントルムに入学してダンディに作曲を師事したというのが、近衛の自己申告によって戦後もずっと音楽事典などに載った経歴だけれど、近衛は5月にはロンドンを経てドイツに移るので、パリの音楽学校の話に十分な実態が伴っていたかはかなり謎だ。続いてドイツではベルリンに落ち着き、シュテルン音楽院に学んだというが、これは本当だろう。フンパーディンクやプフィツナーも学んだ名門である。この学校を拠点にして近衛は、勉強よりも最短で箔をつけるための工作を試みていたと推測できる。9月には関東大震災が起き、近衛の幼い長男・秀俊が、鎌倉で津波に吞まれて逝った。近衛は1920年に結婚し、翌年に長男を授かっていた。愛児の死の知らせが来ても近衛は帰国しない。兄との約束の1年以内に近衛は箔を付けねばならなかった。中途半端なところでは帰れない。

シュテルン音楽院は当時、組織としてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団とつながっていた。ベルリン・フィルは1895年からアルトゥール・ニキシュに率いられて黄金時代を築いていた

が、この大指揮者は1922年に亡くなったばかりだった。次の常任指揮者に任命されたのはウィルヘルム・フルトヴェングラー。そんな時期に近衛はベルリンにやってきた。ベルリン・フィルは、職業的交響楽団の多くがそうであるように、定期演奏会等の主催公演ばかりでなく、依頼演奏会も引き受ける。指揮者自らがベルリン・フィルを雇って一種のリサイタルを行うことも、共演に相応しい相手と認められれば可能だ。近衛はそこに突破口を求めていたのだろう。そのためのさまざまな人脈を築いた。日本の大貴族というところが物をいう。日本政府の後ろ盾<sup>だて</sup>があったのかもしれない。シュテルン音楽院の院長だった作曲家のアレクサンダー・フォン・フィーリッツもベルリン・フィルに日本からの短期留学生を推薦したらしい。

もちろん、近衛の音楽家としての天分の豊かさがあってこそだが、それを超えた何らかの“近衛マジック”も利いたのだろう。1924(大正13)年1月18日の金曜日の20時から、ベートーヴェン・ザールで、近衛の指揮するベルリン・フィルのコンサートが開かれた。練習は前々日と前日の2日間。前日の夜には日本人倶楽部で近衛はベルリン・フィルの面々にご馳走し、接待役にはピアニストの平田<sup>よしむね</sup>義宗やチェリストの齋藤秀雄や俳優<sup>やまのうちひかる</sup>の山内光が加わった。

当日のプログラムがまた振っていた。モーツァルトの《「劇場支配人」序曲》に自作の管弦楽伴奏日本語歌曲。ワーグナー歌手のフリーダ・ランゲンドルフが日本語で歌った。コンチェルトはフランスの作曲家ラロの《チェロ協奏曲》。この選曲がさまざまな意味で話題になった。

コンサートのちょうど1年前の1923(大正12)年1月、フランスは、第1次世界大戦の賠償金の支払いをドイツが滞らせていることを理由に、ドイツのルール地方の工業地帯を占領し



始めた。差し押さえみたいなものだ。当然、ドイツ民衆の反仏感情は爆発し、フランス音楽の演奏はご法度<sup>はつと</sup>になった。そんなとき、近衛はあえてフランス音楽を入れた。大戦終了直後の1919年のニューヨークの演奏会で、アメリカ民衆の反独感情が依然として強いにもかかわらず、山田がワーグナーを指揮して評判を呼んだことを、近衛は意識していたに違いない。チェロのソリストはメンデルスゾーン<sup>ひまご</sup>の曾孫のフェリクス・ローベルト・メンデルスゾーンだった。

そしてメインはカリンニコフの《交響曲第1番》。大戦の敗戦国として諸外国から孤立しがちなドイツと、ロシア革命によって共産主義国となったがゆえに諸外国から警戒されていたソ連は、1922年、ラパロ条約を結んで国交を樹立した。はぐれ者同士、仲良くしようということだ。ドイツではロシア音楽が人気となり、チャイコフスキーやリムスキー・コルサコフの演奏頻度が上がった。しかし近衛は、ドイツ人指揮者によるそれらの演奏を聴いて回ってはスラヴの情趣の著しい欠落を感じ、日本人のほうがドイツ人よりもロシア音楽を情において理解し、血肉を与えられるとの自信を得た。今日、東アジアのオーケストラが海外楽旅に出かけると、メイン・プロでラフマニノフなどを演奏することがよくあるが、近衛のやったことはまさにその走りだ。しかもカリンニコフだと、とてもロシアのかつ歌謡的で、技術的には困難でなく、しかもチャイコフスキーほどには有名でないので、解釈についての細かな批評をされにくからう。計算ずくの選曲だった。

批評はたくさん出た。近衛本人の訳文で

2つだけ引く。まず『ベルリナー・ターゲブラット（ベルリン日刊新聞）』紙。「東京から来たヒデマロ・コノエは真面目に論議すべき管弦楽指揮者である。彼のやる幾分落付かない運動は神経質な自失でなくて異常に活潑的な日本人の性格から来るのである。とにかく彼は増員されたフィルハーモニーの管弦楽団を確実に印象深く指揮したのは注目に値した。カリンニコフのト短調交響楽は彼にとつて極めて有利な印象を人に与えた」。次に『アルゲマイネ・ムジカリッシュェ・ツァイトUNG（一般音楽新聞）』紙。「ヘル・ヒデマロ・コノエがフィルハーモニー楽員の上に立つて、非常に情熱的な、また何處までも目的にかなった指揮振り<sup>た</sup>を見せた。その体軀<sup>たいく</sup>の運動は、まだ幾分急き気味で落付きがないが、楽員達はひとつの健全な音楽の根底の上に立つた堅い意志に導かれていた」。それなりの評価を得たということだ。

山田は確かにカーネギー・ホールで喝采<sup>かつさい</sup>を浴びた。でも振ったのはメトロポリタン歌劇場管弦楽団やニューヨーク・フィルハーモニックのメンバーを主体とした臨時混成オーケストラだ。ところが近衛は世界最高レベルのベルリン・フィルハーモニー管弦楽団そのものを振った！

近衛の箔はこれでもう付きすぎた。師匠の山田を激しく嫉妬<sup>しつと</sup>させるほどに。役者が揃った。

## 文 | 片山杜秀（かたやま もりひで）

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』ほか著書多数。

### 次回予告

ベルリン・フィルを指揮した実績を手に揚々凱旋を果たした近衛秀麿。いよいよ師・山田耕筰とともに交響楽運動に邁進します。



# NHK交響楽団

首席指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：ライナー・キュッヒル、白井 圭

## 第1ヴァイオリン

青木 調  
字根京子  
大鹿由希  
倉富亮太  
後藤 康  
小林玉紀  
齋藤真知亜  
高井敏弘  
猶井悠樹  
中村弓子  
降旗貴雄  
○松田拓之  
宮川奈々  
○森田昌弘  
○山岸 努  
□横島礼理  
○横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

◎大林修子  
☆大宮臨太郎  
木全利行  
齋藤麻衣子  
嶋田慶子  
○白井 篤  
鈴木弘一  
○田中晶子  
坪井きらら  
丹羽洋輔  
平野一彦  
船木陽子  
俣野賢仁  
○三又治彦

宮里親弘  
矢津将也  
山田慶一  
横山俊朗  
米田有花

## ヴィオラ

◎佐々木 亮  
◇川本嘉子  
小野 聡  
小島茂隆  
坂口弦太郎  
谷口真弓  
飛澤浩人  
○中村翔太郎  
○中村洋乃理  
松井直之  
#御法川雄矢  
○村松 龍  
山田雄司

## チェロ

◎藤森亮一  
市 寛也  
小島幸法  
三戸正秀  
辻本 玲  
中 実穂  
○西山健一  
○藤村俊介  
宮坂拓志  
村井 将  
○山内俊輔  
渡邊方子

## コントラバス

◎吉田 秀  
☆市川雅典  
☆西山真二  
稻川永示  
○岡本 潤  
今野 京  
佐川裕昭  
本間達朗  
矢内陽子

## フルート

◎甲斐雅之  
◎神田寛明  
梶川真步  
菅原 潤  
中村淳二

## オーボエ

◎青山聖樹  
◎吉村結実  
池田昭子  
坪池泉美  
和久井 仁

## クラリネット

◎伊藤 圭  
◎松本健司  
# 山根孝司

## ファゴット

◎宇賀神広宣  
◎水谷上総  
佐藤由起  
菅原恵子  
森田 格

## ホルン

◎今井仁志  
◎福川伸陽  
石山直城  
勝俣 泰  
木川博史  
野見山和子

## トランペット

◎菊本和昭  
◎長谷川智之  
安藤友樹  
山本英司

## トロンボーン

◎古賀 光  
◎新田幹男  
池上 亘  
栗田雅勝  
黒金寛行  
吉川武典

## チューバ

池田幸広

## ティンパニ

◎植松 透  
◎久保昌一

## 打楽器

石川達也  
黒田英実  
竹島悟史

## ハーブ

早川りさこ

## ステージ・マネージャー

徳永匡哉  
深畑一徳

## ライブラリアン

沖 あかね  
木村英代

(五十音順、◎首席、◇首席客演、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

|              |                |
|--------------|----------------|
| 岩谷産業株式会社     | 代表取締役社長   間島 寛 |
| 三菱地所株式会社     | 執行役社長   吉田淳一   |
| 東日本旅客鉄道株式会社  | 代表取締役社長   深澤祐二 |
| 株式会社 みずほ銀行   | 頭取   藤原弘治      |
| 公益財団法人 渋谷育英会 | 理事長   小丸成洋     |

### 特別協力

|             |                                    |
|-------------|------------------------------------|
| BMW ジャパン    | 代表取締役社長   Christian Wiedmann       |
| ユナイテッド航空会社  | アジア太平洋・大西洋地区営業担当副社長   Marcel Fuchs |
| 全日本空輸株式会社   | 代表取締役社長   平子裕志                     |
| 株式会社 松尾楽器商会 | 代表取締役   松尾治樹                       |
| ヤマハ株式会社     | 代表執行役社長   中田卓也                     |
| 株式会社 パレスホテル | 代表取締役社長   吉原大介                     |

### 賛助会員

|  |                                       |  |
|--|---------------------------------------|--|
| ・ 常陸宮                                      | ・ イーソリューションズ(株)<br>代表取締役社長   佐々木経世    | ・ SMBC日興証券(株)<br>代表取締役社長   近藤雄一郎         |
| ・ (株)アートレイ<br>代表取締役   小森活美                 | ・ EY新日本有限責任監査法人<br>理事長   片倉正美         | ・ SCSK(株)<br>代表取締役社長執行役員 最高執行責任者<br>谷原 徹 |
| ・ アイシン・エィ・ダブリュ(株)<br>取締役社長   尾崎和久          | ・ 池上通信機(株)<br>代表取締役社長   清森洋祐          | ・ (株)NHKアート<br>代表取締役社長   小野木昌史           |
| ・ 葵設備工事(株)<br>代表取締役社長   安藤正明               | ・ 伊東国際特許事務所<br>会長   伊東忠彦              | ・ (一財)NHK インターナショナル<br>理事長   小泉公二        |
| ・ アサヒグループホールディングス(株)<br>代表取締役社長兼CEO   小路明善 | ・ 井村屋グループ(株)<br>代表取締役会長   浅田剛夫        | ・ NHK 営業サービス(株)<br>代表取締役社長   松原洋一        |
| ・ (株)朝日工業社<br>代表取締役社長   高須康有               | ・ (株)インターネットイニシアティブ<br>代表取締役会長   鈴木幸一 | ・ (株)NHK エデュケーションル<br>代表取締役社長   熊楚御堂朋子   |
| ・ 朝日信用金庫<br>理事長   橋本 宏                     | ・ (株)ウイングツァー<br>代表取締役   福田健二          | ・ (一財)NHK エンジニアリングシステム<br>理事長   山本 真     |
| ・ 有限責任 あずさ監査法人<br>理事長   高波博之               | ・ AGC(株)<br>代表取締役兼社長執行役員   島村琢哉       | ・ (株)NHK エンタープライズ<br>代表取締役社長   安齋尚志      |
| ・ アットホーム(株)<br>代表取締役社長   鶴森康史              |                                       |  |

- ・(学)NHK学園  
理事長 | 浜田泰人
- ・(株)NHK グローバルメディアサービス  
代表取締役社長 | 荒木裕志
- ・(一財)NHK サービスセンター  
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版  
代表取締役社長 | 森永公紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ  
代表取締役社長 | 大橋一三
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ  
代表取締役社長 | 谷弘聡史
- ・(株)NHK プロモーション  
代表取締役社長 | 風谷英隆
- ・(一財)NHK放送研修センター  
理事長 | 原田達也
- ・(株)エヌオーイー  
代表取締役社長 | 橋本 肇
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 吉澤和弘
- ・(株)NTTファシリティーズ  
代表取締役社長 | 一法師 淳
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組  
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・沖電気工業(株)  
代表取締役執行役員 | 鎌上信也
- ・小田急電鉄(株)  
取締役社長 | 星野晃司
- ・花王(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 澤田道隆
- ・カシオ計算機(株)  
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 押味至一
- ・片倉康行
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役社長 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)  
代表取締役社長 | 中西一雄
- ・(株)関電工  
取締役社長 社長執行役員  
仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)  
取締役名誉会長 | 茂木友三郎
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 三宅国紀
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役 | 牧野和宏
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)  
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 山田晴彦
- ・グラフィックプラットフォーム(株)  
代表取締役 | 長谷川正治
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役 | 紅村 康
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 | 小林敏也
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)  
取締役社長 | 原田一之
- ・(医)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)サウンド&ミュージック クリエーション  
代表取締役 | 河合由里子
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・(株)サコ コンサルタント  
取締役 総務部長 | 大森 保
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役社長 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役社長 | 富田 稔
- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・JXTGホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 杉森 務
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)ジュビターテレコム  
代表取締役社長 | 石川雄三
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役社長 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック  
名誉院長 | 松木康夫
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)  
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・鈴木美代
- ・住友商事(株)  
代表取締役社長執行役員 CEO  
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・住友電設(株)  
取締役社長 | 坂崎全男
- ・セイコーホールディングス(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
服部真二
- ・聖徳大学  
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
取締役社長 | 喜多村樹美男

- ・関彰商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン  
代表取締役 | 小谷野宗靖
- ・全国農業協同組合連合会  
経営管理委員会 会長 | 長澤 豊
- ・洗足学園音楽大学  
学長 | 万代晋也
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長 CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 西澤敬二
- ・第一三共(株)  
代表取締役会長 | 中山譲治
- ・ダイキン工業(株)  
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日本印刷(株)  
代表取締役 | 北島義俊
- ・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 COO | 小島和人
- ・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田原 昇
- ・中外製薬(株)  
代表取締役会長 | 小坂達朗
- ・(株)電通  
代表取締役 社長執行役員 | 五十嵐 博
- ・(株)TOKAIホールディングス  
代表取締役社長 | 鶴田勝彦
- ・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・東急(株)  
取締役社長 | 高橋和夫
- ・(株)東急文化村  
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 八木橋孝男
- ・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・東邦音楽大学  
理事長・学長 | 三室戸東光
- ・桐朋学園大学  
学長 | 梅津時比古
- ・東邦ホールディングス(株)  
代表取締役会長 CEO | 濱田矩男
- ・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 二宮清隆
- ・(-財)凸版印刷三幸会  
代表理事 | 足立直樹
- ・トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・内外施設工業(株)  
取締役会長 | 林 正道
- ・中銀グループ  
代表 | 渡辺藏人
- ・(株)日放ツーリスト  
代表取締役社長 | 谷本佳則
- ・日本ガイシ(株)  
取締役社長 | 大島 卓
- ・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 城本 勝
- ・日本通運(株)  
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・日本電気(株)  
代表取締役 執行役員社長  
新野 隆
- ・日本土地建物(株)  
代表取締役社長 | 平松哲郎
- ・(-財)日本放送協会 共済会  
理事長 | 北爪秀樹
- ・日本郵政(株)  
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ  
代表取締役社長 | 山本利行
- ・野村ホールディングス(株)  
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック(株)  
代表取締役社長 | 津賀一宏
- ・(有)パルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・東日本電信電話(株)  
代表取締役社長 | 井上福造
- ・(株)日立製作所  
執行役社長 | 東原敏昭
- ・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)  
代表取締役社長 | 川上博予
- ・古川建築音響研究所  
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 井上樹彦
- ・(公)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)  
代表取締役 | 水野雅義
- ・前田工織(株)  
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・(株)松尾楽器商会  
代表取締役 | 松尾治樹
- ・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)  
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)  
取締役社長 | 原 典之
- ・(株)三井住友銀行  
頭取 | 高島 誠
- ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 垣内威彦
- ・三菱電機(株)  
執行役社長 | 杉山武史
- ・(株)緑山スタジオン・シティア  
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(学)武蔵野音楽学園  
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治  
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎  
取締役社長 | 三井田 健

・(株)目の眼  
代表 | 櫻井 恵

・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾

・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔

・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸

・(株)山野楽器  
代表取締役社長 | 山野政彦

・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 押木正人

・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄

・米澤文彦

・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 藤沼大輔

・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 坂元 隆

・リコージャパン(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
坂主智弘

・料亭 三長  
代表 | 高橋千善

・(株)リンレイ  
代表取締役社長 | 鈴木信也

・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 戸張誠二

・ローム(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
松本 功

・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 中野健次

(五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL: 03-5793-8120

# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Paavo Järvi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmasters: Rainer KÜchl, Kei Shirai

## 1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Machia Saito
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Masahiro Morita
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- ◎ Nobuko Obayashi
- ☆ Rintaro Omiya
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Koichi Suzuki
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Chikahiro Miyazato
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

## Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◇ Yoshiko Kawamoto
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Shotaro Nakamura
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

## Cellos

- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Masahide Sannohe
- Rei Tsujimoto
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

## Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- ☆ Masanori Ichikawa
- ☆ Shinji Nishiyama
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

## Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Jun Sugawara
- Junji Nakamura

## Oboes

- ◎ Satoki Aoyama
- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

## Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

## Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

## Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- ◎ Nobuaki Fukukawa
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Kazuko Nomiyama

## Trumpets

- ◎ Kazuaki Kukimoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando

Eiji Yamamoto

## Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Masakatsu Kurita
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

## Tuba

Yukihiro Ikeda

## Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

## Percussion

Tatsuya Ishikawa  
Hidemi Kuroda  
Satoshi Takeshima

## Harp

Risako Hayakawa

## Stage Manager

Masaya Tokunaga  
Kazunori Fukahata

## Librarian

Akane Oki  
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ◇ Guest Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

# 2020-21シーズン公演日程

|          | NHKホール<br>±6:00pm / 回3:00pm  | 東京芸術劇場<br>金7:00pm / ±2:00pm | サントリーホール<br>水7:00pm / 木7:00pm |
|----------|--|-----------------------------|-------------------------------|
| 20<br>20 | 11 11/14± 15日  | 11/20金 21±                  | 11/25水 26木                    |
|          | 12 12/5± 6日  | 12/11金 12±                  | 12/16水 17木                    |
| 20<br>21 | 01 1/16± 17日   | 1/22金 23±                   | 1/27水 28木                     |
|          | 02 2/6± 7日   | 2/12金 13±                   | 2/17水 18木                     |
|          | 04 2021年4月～6月は、<br>サントリーホールで<br>3プログラム6公演を<br>行う予定です。<br>詳細は後日発表します。 | 4/16金 17±                   | 4/21水 22木                     |
|          | 05   | 5/21金 22±                   | 5/26水 27木                     |
|          | 06   | 6/11金 12±                   | 6/16水 17木                     |

## NHK交響楽団 12月公演 | チケット発売中

チケット料金、前売所等については、  
N響ホームページの各公演ページをご覧ください。

### NHKホール

2020年12月5日(土) 6:00pm | 6日(日) 3:00pm  
指揮：井上道義 | ピアノ：松田華音  
ショスタコーヴィチ / 交響曲 第1番 ヘ短調 作品10  
伊福部 昭 / ピアノと管弦楽のための「リトミカ・オスティナータ」  
伊福部 昭 / 日本狂詩曲

### 東京芸術劇場 コンサートホール

2020年12月11日(金) 7:00pm | 12日(土) 2:00pm  
指揮：秋山和慶 | ヴァイオリン：諏訪内晶子  
ベートーヴェン / 「エグモント」序曲  
ベートーヴェン(マーラー編) / 弦楽四重奏曲 第11番  
ヘ短調 作品95「セリオーン」(弦楽合奏版)  
ベートーヴェン / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61

### サントリーホール

2020年12月16日(水) 7:00pm | 17日(木) 7:00pm  
指揮：井上道義  
プロコフィエフ / バレエ音楽「シンデレラ」作品87(抜粋)  
チャイコフスキー / 交響曲 第4番 ヘ短調 作品36

#### WEBチケットN響(手数料無料)

チケットのご予約は、スマートフォンやPC  
から、座席を選んで簡単にチケットが確保  
できる「WEBチケットN響」が便利です。



お問い合わせ：N響ガイド TEL 03-5793-8161  
※営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください。

#### お詫びと訂正

本誌『Philharmony』10月号にて誤りがございました。  
お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正をさせていただきます。

9頁 ヘルバルド《交響曲第4番》の曲目解説の第2段落1行目  
[誤]ヘルバルドはウィーンで過ごしていた1842年から1845年にかけて  
[正]ヘルバルドは1842年から1845年にかけて



# ベートーヴェン「第9」演奏会 (NHKホール) かんぽ生命 presents N響第九 Special Concert (サントリーホール) チケット発売中



2020/12/23(水) 7:00pm

2020/12/25(金) 7:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

2020/12/26(土) 3:00pm

NHKホール

指揮:パブロ・エラス・カサド

ソプラノ:高橋絵理 メゾ・ソプラノ:加納悦子 テノール:宮里直樹 バリトン:谷口 伸

合唱:新国立劇場合唱団

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(すべて税込): 一般 S席15,000円 A席10,000円 B席6,000円

ユースチケット(25歳以下) S席7,500円 A席5,000円 B席3,000円

チケット:発売中

主催:NHK / NHK交響楽団

協賛:みずほ証券株式会社 / はごろもフーズ株式会社 / 花王株式会社 / 株式会社明電舎

お問合せ:N響ガイド TEL(03) 5793-8161

2020/12/27(日) 2:00pm | かんぽ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:パブロ・エラス・カサド

ソプラノ:高橋絵理 メゾ・ソプラノ:加納悦子 テノール:宮里直樹 バリトン:谷口 伸

合唱:新国立劇場合唱団 オルガン:勝山雅世\*

バッハ／組曲 第3番 二長調 BWV1068-「アリア」(G線上のアリア)\*

バッハ(デュリュフレ編)／コラール「主よ、人の望みの喜びよ」\*

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(すべて税込): 一般 S席17,500円 A席13,500円 B席9,000円

ユースチケット(25歳以下) S席8,750円 A席6,750円 B席4,500円

チケット:発売中

主催:NHK交響楽団

特別協賛:株式会社かんぽ生命保険

お問合せ:N響ガイド TEL(03) 5793-8161

※ この公演に休憩はございません。

※ ユースチケットのお取り扱いにはN響ガイドのみとなります(公演日の5営業日前までの受付となります)。公演当日の販売はございません。感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要となりますので、詳細はN響ホームページをご覧ください。

※ 車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

※ N響ガイドでのお申し込みは、公演日の5営業日前までとなります。

※ 会場での当日券販売は行いません。公演当日に残席がある場合はWEBチケットN響でのみ販売いたします。

※ 感染症予防対策のため、販売座席を制限いたします(全席指定)。今後の状況によっては、座席を追加して販売する場合があります。

※ 未就学児のご入場はお断りしています。

Iwatani

おかげさまで90年

90<sup>th</sup>  
さあ、100年企業へ

# 水素で 世界を動かせ。

時代が問う。人類は次の100年を託せるエネルギーを持っているか。

私たちには、水素がある。燃焼してもCO<sub>2</sub>を排出せず、

大きなパワーを生み、枯渇することがない

その究極のクリーンエネルギーは、すでにロケットを宇宙へ送り、

先端産業を支え、電気を作り、車を走らせている。

世の中に必要なものは、必ず世の中の当たりまえになってゆく。

だから突き進もう。水素で、もっと社会を、時代を、世界を動かせ。

日本には、未来を変えるエネルギーがある。

水素シェア No.1<sup>※</sup>

**Iwatani**  
岩谷産業株式会社

※岩谷産業株式会社は、水素ガスの販売において国内市場シェア約70%を占めています。(2020年8月現在、自社調べ)